令和元年度 特別支援教育セミナー

8月2日(金)、シーパル大船渡を会場に特別支援教育セミナーを行いました。

全体会では、「支援体制について」をテーマに、サポートファイル「つむぎ」の活用や見直 しについて、小学校や中学校での校内支援の実践事例や「特別支援教育コーディネーターを中 心とした支援体制」などについての発表があり、就学前からのそれぞれのライフステージにお いた支援のあり方を学ぶことができました。



感想(アンケートより)

- ・子どもの状況に合わせて適切な支援をしてい くことの大切さを感じた。
- ・校内で共通理解を図りながら支援できるよう 体制を整えたい。
- ・切れ目のない支援のあり方、保護者との共通 理解、関係機関との連携など多くのことを学ぶ ことができた。

さらに、その後の分科会は以下の4つのテーマに分かれて講義、グループワークなどを行いました。どの分科会も活発に質問や意見が出され、校種を超えて話し合いを深めることができました。

〈第1分科会 自己肯定感に視点を当てた支援方法〉

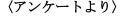


〈アンケートより〉

- •「自己肯定感の低下を防ぐ」 ことについていろいろ考える ことができた。今後、声かけ する時に留意していきたい。
- ・楽しみながら参加していくう ちに自己肯定感を高めていける

のは大人も同じだと思う。2学期から何か楽しいと思えることをやってみようと元気をいただいた。

〈第2分科会 将来を見通した進路指導〉





- ・進路選択の際の留意点を知ることができた。
- ・「見る」「体験する」「自 己理解の心を育てる」 「将来(就労)までのイ メージを本人、保護者 が持つ」等様々なこと を教えていただいた。

〈第3分科会 WISC-IVを活用した支援方法〉



〈アンケートより〉

- ・検査結果からどのように支援 の仕方を考えていけばよいか 担任をしている児童のことを 思い浮かべながら考えることが できた。
- ・WISC のそれぞれの指標が 深い意味をもつということが わかった。

〈第4分科会 通常学級での支援と合理的配慮〉



〈アンケートより〉

- ・具体例について、どう支援、どんな配慮をするのかグループで 演習を行い、交流したことによっていろいろな方法があること を初めて知った。校内でも共有していきたい。
- 担任だけでなくたくさんの方 や子どもたちの協力を得ながら 支援をしていきたいと思う。